



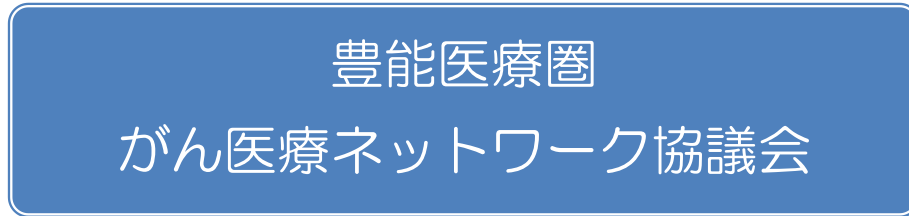
# 豊能医療圏 がん医療ネットワーク協議会 活動報告

〔令和6年（2024年）8月5日〕

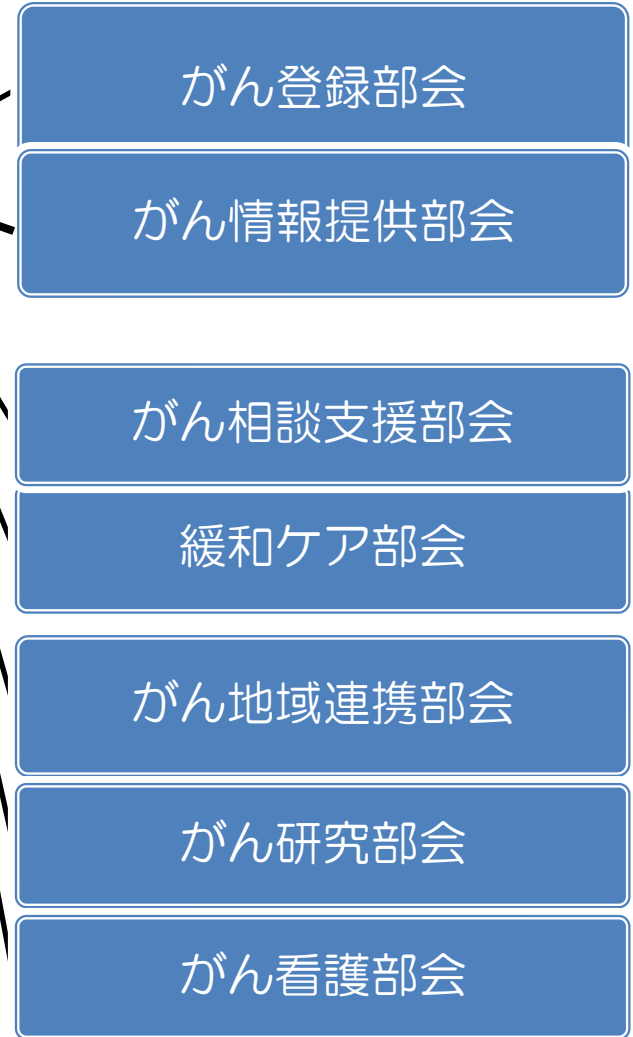
市立豊中病院  
大阪大学医学部附属病院

# 組織図

# 組織図

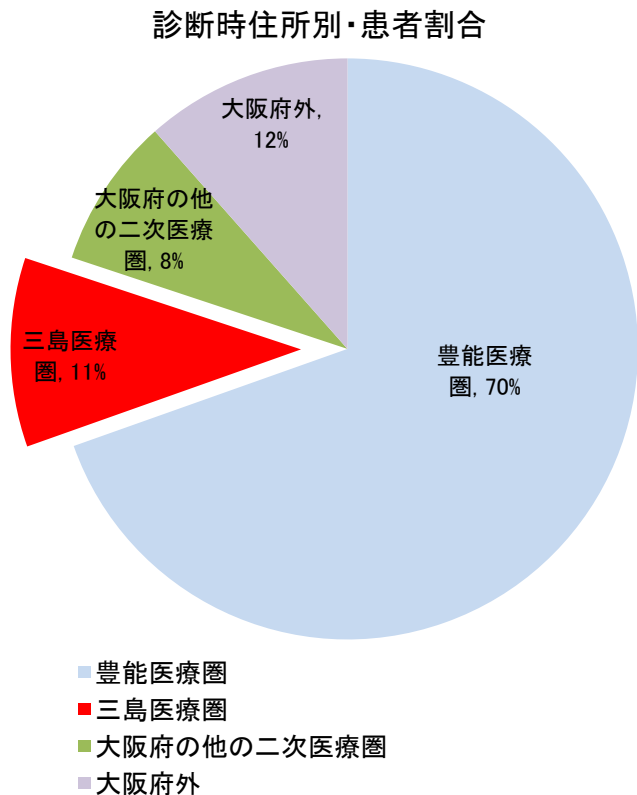
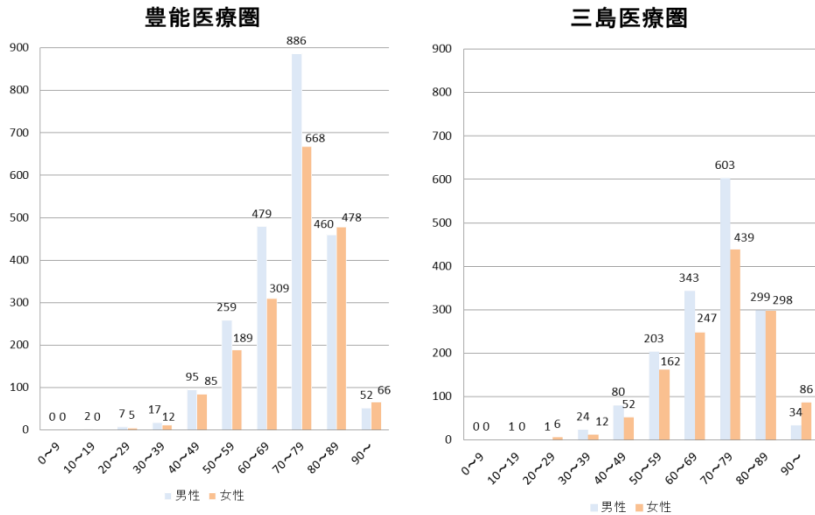


- 【参加団体】
- ◆大阪府がん診療連携協議会
  - ◆大阪府（健康づくり課）
  - ◆ 医師会
  - ◆ 保健所
  - ◆ 市町
  - ◆ **ホスピス・在宅診療所**
  - ◆ **大阪府訪問看護ステーション協会**
  - ◆ がん診療（連携）拠点病院



# がん登録部会

豊能医療圏がん登録部会では、これまで院内がん登録データを利用したベンチマークを作成し豊能医療圏の現状分析を実施してきた。昨年度は、**三島医療圏がん登録部会と共同でベンチマークを作成**し、両医療圏の現状について比較、分析を実施。



今年度も継続して共同でベンチマークを作成する予定。  
昨年度より、連携を強化し両医療圏の特徴を活かせるような分析項目やレイアウトを検討する予定。

# がん情報提供部会

## 1. がん教育の推進

- 児童・生徒向けがん教育出前講座への継続的な講師派遣に取り組む。
- 各市町と教育委員会への働きかけを継続し、充実・強化を図っていく。

## 2. がん医療公開講座の実施の方向性の検討

- 講座の開催方法について検討を図っていく

# がん相談支援部会

## 各施設での患者さんへの周知の方法

各医療機関の現状や行っている取り組みについて事前に情報共有し再確認を行った。

## 相談支援の内容について

内容自体にはおおむね施設間の差はないが、業務が多岐にわたる一方で、マンパワーの問題は大きい。積極的にAYAチームを作って活動している施設(市立豊中)の情報を共有した。地域連携部会が実施したAYA世代に関するアンケート調査の内容も踏まえ、相談支援部会として今後の活動方針について検討したい。

## セカンドオピニオンについて

数年前に情報共有したことがあるが、今回改めて各施設に現状を確認した結果、年間の相談件数は大阪大学病院200件、市立豊中病院15件、ほかの施設は4-1件。対応可能ながん種、費用などを再確認できたので、各施設と情報を共有し、患者さんへの紹介に利用することにする。

## 今年度の予定としては、

昨年度は他の施設の情報を収集し、問題点の把握、他施設の取り組みを確認したので、相談支援センターの多岐にわたる業務について、順番に検討を加えていきたい。

# 緩和ケア部会

## 1) 地域連携リレーシートの改訂

診療情報書の他に、緩和ケアに関する情報シートを部会で作成し、地域連携に利用している。今年度改訂版を作成予定。

## 2) 地域連携カンファレンス（マッチング）

部会参加施設間でカンファレンス希望施設を聴取しマッチング。共通テーマについても議論し意見を部会でまとめて共有する。（R6年度テーマ：ACPを地域間でつなげる方法）

## 3) 地域統一の専門的緩和ケア一覧の作成

神経ブロック、緩和的放射線治療などの実施状態、院外施設からの受入可否などを部会でまとめて公表。各施設へ作成依頼（統一様式）し、部会で集約、当年度内に協議会HP等で公開。

## 4) 緩和ケア認定看護師のB課程認定看護師教育課程教育機関の設立を要望

部会参加施設の現状を調査する。緩和認定看護師確保による患者、従事者、病院のメリットを整理し、要望の実現性への補強資料を作成。

# がん看護部会

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

5/30  
第1回豊能医療圏  
がん看護部会

6/28  
大阪府協議会  
がん看護部会

(Web会議)

1月下旬  
第2回豊能医療圏  
がん看護部会

**ELNEC-J**: 2日間のコースで実施予定、初年度は8病院のスタッフに案内  
大阪府の予算を申請予定

← 募集 →

① ②

**看護師研修**: 合同での事例検討(Web活用)、参加者の連携も意図  
初年度は、各施設のリソースナースの自己研鑽の場とする

▲ 1回目

▲ 2回目

\* 治療期の意思決定支援、療養支援などをテーマとし、テーマに応じたスタッフに案内

**研修相互受入れ**: 各組織で実施する看護部研修の院外公開、相互受入

看護部責任者に  
案内(依頼文)

▲ 研修一覧の配信

← 相互受入れ →

\* 新規事業の企画にご指導、ご協力お願いします

# がん地域連携部会

## ● 各施設の実績・体制の調査結果

- ✓ パネル検査実施数は少ない
- ✓ がん遺伝子パネル検査の実施フローが整備されている施設も少ない
- ✓ AYAチームがある施設は少ない

## ● 各施設職員におけるがんゲノム医療とAYA世代支援の認知度調査の結果

- ✓ がん遺伝子パネル検査の認知度が低い
- ✓ AYA世代のがんに対する認知度は高いが、実際のニーズや支援制度までは認知されていない

- ・ **ゲノム、AYA**：各施設における**認知度を上げる**  
**共通のポスター**を作成
- ・ **ゲノム・AYA共通**：  
施設横断的な研修会、プラットフォーム作り



# がん研究部会（阪大病院単独）

## (1) 小児がん対策

- 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

## (2) 造血幹細胞移植の推進

## (3) がん研究の推進

- 多施設臨床研究の推進
- 臨床研究中核病院
- がんゲノム医療中核拠点病院

## (4) 先進医療の推進

- テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）
- 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）
- 術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（70歳以上80歳未満の患者に係るものに限る。）（先進医療B）

## (5) 人材育成

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）

## (1)小児がん対策

### ● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、2019年に厚労省認定小児がん連携病院、大阪認定府小児がん拠点病院となり、小児がん拠点病院を含む大阪府内の小児がん診療施設と連携し、小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。

特に難治性血液悪性腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫および肝移植の必要な肝芽腫などについては大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科などと連携して治療にあたっている。

血液・悪性腫瘍やその他の疾患に対する造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。

2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性白血病の治療に取り組んでいる。

AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存については、生殖医療センターと連携し、事前にきめこまかな面談を施行のうえ、卵巣凍結をはじめ高度な医療提供を行っている。

小児科では、2005年から治療後の長期フォローアップ外来を設置している。一生を通じて質の高い生活を送ることができるように多診療科による医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種による支援を行っている。同時に移行期医療にも力を入れていく予定である。

## (2)造血幹細胞移植の推進

### ● 造血幹細胞移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間28件（2023年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁（骨髄、末梢血幹細胞）、骨髄バンク（骨髄、末梢血幹細胞）、臍帯血のすべてに対応しており、昨年は末梢血幹細胞を用いた移植が2/3となっていた。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2023年は26件施行している。

## (3)がん研究の推進

### ● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキューール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

### ● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。

## ● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を厚生労働省より受け、令和5年3月に引き続き指定を受けた。（指定期間：令和9年3月31日まで）

- ・令和6年5月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国に32病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。

（協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院【連携】大阪公立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）

- ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を実施した。（199例登録）

- ・令和元年9月中旬より保険診療下でのがん遺伝子パネル検査の受付を開始し、令和6年5月現在、当院で行っている保険診療のがん遺伝子パネル検査は以下の5種類である。

OncoGuide™ □ NCCオンコパネル システム、FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル、FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル、Guardant360 CDx がん遺伝子パネル、GenMineTOPがんゲノムプロファイリングシステム

（令和元年:96件、令和2年:224件、令和3年:255件、令和4年:259件、令和5年：251件）

## ● がんゲノム医療中核拠点病院

・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も共同医療機関として実施している。

・令和4年9月より、AMED全ゲノム研究（患者還元班）に参加し、難治がん・希少がんに対する全ゲノム解析研究を実施している。（令和4年度100例登録、エキスパートパネル開催95例、令和5年度:98例登録、解析中）

## **(4)先進医療の推進**

- **以下の先進医療を現在実施中である（R6.5.1）**

1.テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）

2.術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）

3.術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブ-パクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。）（先進医療B）

## **(5)人材育成**

- **がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）**

108名（2024年度）

（薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など）